サキホコレ学園

Aチームが行く!

教えてパイセン!

サキホコレ学園による秋田暮らしインタビュー

仕事もプライベートも充実した秋田ライフを送りたい。
学園のメンバーが人生の『パイセン』に、
仕事のこと、プライベートのこと、何でも聞いちゃいました!

アルフレッサファインケミカル株式会社

今回、サキホコレ学園Aチームが訪れたのは、秋田市にあるアルフレッサファインケミカル株式会社。医薬品卸で国内トップクラスの業績を誇るアルフレッサグループの企業で、主に医薬品などの製造を行っています。会社の敷地はとても広くて森の中の公園のよう。ここで働く先輩はどんな仕事をしているのでしょうか。話を聞くため、さっそく社屋へ突撃したいと思います!

今回のパイセン

髙橋さん

Aチーム
本日はよろしくお願いします。

伊藤さん
こちらこそよろしくお願いします。私は管理部総務課課長の伊藤、隣が皆さんに年齢が近い品質管理部試験課の髙橋、その隣が髙橋の直属の先輩・保坂です。何でも聞いてください。

Aチーム
会社のゲートをくぐって、まるで緑地公園のような広い敷地に驚かされました。働く人も多そうですが、最初から地元で人材を集めたんですか?

伊藤さん
約40年前、当時は県外からの従業員が中心で創業しました。福利厚生を都市部の基準に合わせるなど、いろいろな工夫をして、家族で秋田へ移り住むことを多くの社員に受け入れてもらったんです。

Aチーム
それまで都会で暮らしていた人たちは、秋田の気候や文化に慣れるまで大変だったのではないですか?

伊藤さん
大変だったと思います。ですが住めば都。今は移住してきた皆さんやその家族たちみんなが、秋田暮らしを心から楽しんでいますよ。

Aチーム
職場の男女比率はどのくらいですか?

伊藤さん
課によって比率は異なりますが、髙橋が所属する試験課は女性の比率が多い部署です。逆に化学物質を扱ったり、力仕事が多かったりする製造課はどうしても男性が多めになりますが、今後は女性の配属も視野にいれています。会社としては男女の区分けなく、さまざまな部署を経験しながらキャリアを積む人材を育てたいと考えています。

Aチーム
女性には出産、育児という大きなライフイベントがありますが、会社として何か支援はしていますか?

保坂さん
弊社は子育てサポート企業として厚生労働大臣の認定を受けています。昨年度は女性社員21名中、対象の4名が育児休業を取得しているほか、半日単位、時間単位で取得できる有給を活用し、多くの社員が子育てをしながら仕事を続けています。ちなみに出産後の復職率は100%です。

Aチーム
すごいですね!ところで髙橋さんは、どうしてこちらの会社に勤めようと思ったのですか?

髙橋さん
製薬に関わる仕事に興味があったため、大学は秋田県立大学に進学しバイオテクノロジーを学びました。また、生まれ育った秋田が好きで、地元で働きたいとずっと思っていたので、その二つを同時にかなえてくれるこの会社に魅力を感じたからです。

Aチーム
髙橋さんの仕事内容を簡単に教えてください。

髙橋さん
分析機器を使用しての医薬品の原料の受け入れ試験や製品の試験など試験業務が主です。ほかに事務作業などもあります。

Aチーム
実際に働いてみてどうでしたか?

髙橋さん
日々、大小さまざまな気づきを与えてくれる仕事にはやりがいがありますし、社員同士、本当に仲が良いので、毎日会社に来るのが楽しいです。

Aチーム
大学で学んだことは生かされていますか?

髙橋さん
科学的な原理や専門器具の取り扱いなど、基本的な知識は応用できています。

Aチーム
仕事でミスをしてしまったことはありますか?

髙橋さん
もちろんあります。だけどそんな時は、すぐに先輩が助け船を出してくれるので、最悪の事態になるまで一人で思い悩むといった経験をしたことはありません。

Aチーム
残業は多いですか?

髙橋さん
少ないです。毎日だいたい定時には退勤しています。明日できる仕事は明日頑張ろうと、会社も推奨している定時退社に努めています。

Aチーム
休日はどんなことをして過ごしていますか?

髙橋さん
実家に帰って家族と過ごしたり、会社が協賛している秋田ノーザンハピネッツの試合を観に行ったり。学生時代から今も続けているバドミントンの大会に参加することもあります。

Aチーム
最後に、髙橋さんの今後の目標を聞かせてください。

髙橋さん
入社3年目になったので、そろそろ新人キャラから抜け出し、まわりに信頼してもらえる社員になれるよう頑張りたいです。プライベートでは、ここで働く女性の先輩たちのように、ママとして仕事も子育ても両方充実させたいです。その前にまず結婚ですけど(笑)

今回のインタビューで一番印象に残ったのは、「毎日会社に来るのが楽しい」という髙橋さんの言葉。職場は人生の多くの時間を費やす場所なので、そこが楽しいというのは、もしかすると何より大事なことなのかも!私たちも将来、髙橋さんのように笑顔で「楽しい」と言える会社で働きたいと思いました。